



逢坂・大坂山口神社

スポット展示・香芝の文化財シリーズ②

会期：平成22年1月5日(火)～同年1月31日(日)

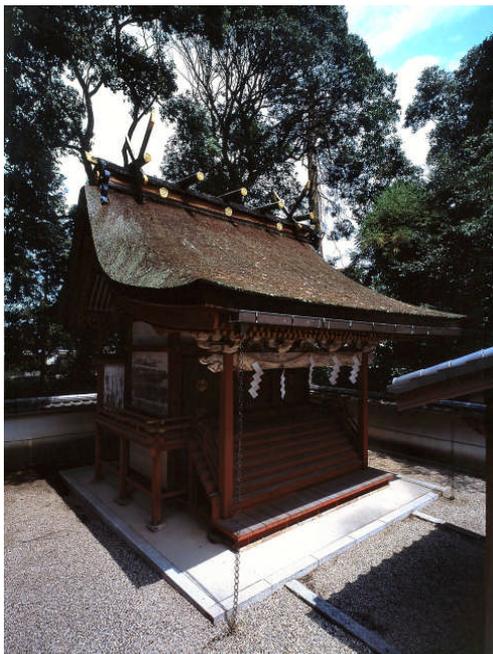
神像と狛犬

大和から二上山麓を越えて河内に至る道は、西日本の各地やアジア大陸への水路に当たる瀬戸内と、大和の都とを結ぶ交通の要衝である。大和の東西を結ぶ横大路に接続する道は、南から平石峠・竹内峠・岩屋峠・穴虫峠・関屋峠(国分峠)の諸峠が存在する。『日本書紀』崇神9年3月15日の条に、「天皇の夢に神人有して、誨へて曰はく、「赤盾八枚・赤矛八竿を以て、墨坂神を祀れ。亦黒盾八枚・黒矛八竿を以て、大坂神を祀れ」とのたまふ。」とあり、続けて同4月16日の条に、「夢の教の依に、墨坂神・大坂神を祭りたまふ。」とみえている。墨坂神は宇陀市榛原区の墨坂神社に、大坂神は香芝市穴虫及び逢坂の大坂山口神社(2社)に比定するのが通説で、両社は古代大和における東西の重要な峠を守護している。また、同天武8年11月の条に、「初めて、龍田山と大坂山に関を置き、難波に羅城を築く」とみえ、古代において大坂の地が交通の要衝として強く意識されていたことがわかる。



大坂山口神社(香芝市逢坂)

大坂山口神社は、『日本三代實録』の貞観元(859)年正月27日条の「京畿七道諸神進階及新叙。惣二百六十七社。」



県指定 大坂山口神社(逢坂)本殿

において「従五位下(中略)大坂山口神(中略)正五位下。」とあり、正五位下に神階を進められた。また同9月8日の条には「大和国(中略)大坂山口神(中略)名次神等遣使奉幣。為雨風祈焉。」とあり、風雨祈願のための幣帛を賜っている。さらに、康保4(967)年7月施行の『延喜式』神名帳(巻9神祇9)では「葛下郡十八座大十三座小五座」のうちに列し「大坂山口神社大。月次新嘗。」とみえ、同(巻3神祇3)臨時祭の条には「祈雨神祭八十五座」に列し、「大坂山口社一座」とあり、祈雨並びに止雨の幣帛を奉られている。これらのことから、少なくとも9世紀半ば以前に成立していたことがはっきりしている。

現在、大坂山口神社は古代大坂越えの大和から河内に至る入口にあたる穴虫と、その東北に位置する逢坂の2ヶ所に所在し、ともに式内社と称している。

逢坂の集落西部に鎮座する大坂山口神社は、寛永15(1638)年以来的棟札が17枚(うち、9枚は県指定)あり、それによると近世まで牛頭天王社と称していた。祭神は大正5(1916)年8月の「明細冊鬚丁正願」に



大坂山口神社神像及び宝物類

指定年月日:平成14年3月8日(市指定第23号)
 時代:平安時代末期～江戸時代
 所有者:大坂山口神社
 二上山博物館寄託

内訳 法量(cm)
 (周丈)

木造男神坐像 1体 鎌倉時代 像高25.0
 木造女神坐像(伝稲荷大明神) 1体 鎌倉時代末期 像高18.5
 木造神祇坐像 1体 室町時代末期 像高12.5
 木造神祇立像 1体 (焼痕あり・時代不詳) 像高22.5
 木造神祇立像 1体 (焼痕あり・時代不詳) 像高16.5
 木造牛頭天王立像 1体 鎌倉時代 像高40.0
 木造牛頭天王立像(伝黄幡神) 1体 鎌倉時代末期 像高29.5
 木造天王形坐像(伝出雲大明神) 1体 江戸時代 像高11.6
 木造弁財天立像 1体 江戸時代 像高15.5
 木造恵比寿坐像 1体 江戸時代 像高18.5
 木造恵比寿坐像 1体 江戸時代 像高18.2
 木造狛犬(吽形) 1体 平安時代末期 像高21.5
 木造狛犬(阿形) 1体 鎌倉時代 像高22.0
 木造狛犬 一对 鎌倉時代 像高 阿形18.8 吽形18.8
 木造狛犬 一对 江戸時代 像高 阿形16.0 吽形16.7
 瓦製狛犬 一对 江戸時代 像高 阿形29.5 吽形31.0
 (文書)
 宮座文書(前後欠) 1巻 室町時代末期～江戸時代初期
 幅15.6 全長165.9
 和銅五年銘(追記)のある竹製筒 1点 幅4.2 全長26.5
 大和国葛下郡大坂神社記 1冊 江戸時代 縦34.5 横24.8
 (祭具)
 鉄製釜 一式 江戸時代 口径52.3 器高29.7
 木製蓋 直径36.3 高13.5
 鉄製脚 直径39.8 高38.8

* 網掛は今回の展示資料です。

よると、^{おおやまづみのみこと}大山祇命、^{すさのおのみこと}須臾鳴尊、^{かみおおいちひめのみこと}神大市姫命とされている。本殿は三間社^{さんげんしゃ}流造、^{うねいさき}檜皮葺。明治期の「神社明細帳」には、「社殿創立年月不詳、永禄三庚申(1560)年六月再建ス」とあるが、寛永15年の棟札があり、構造手法からみてもこの時期の建立と考えられる。しかし、軒廻りや妻飾、向拝部分の絵様、組物、扉口などに桃山時代の様式を残している。県内の流造本殿の中でも古例に属し、江戸時代末期までたびたび補修を受けながらも古式をよく留めている(昭和63年3月、奈良県指定文化財)。拜殿は明治26(1893)年に再建され、平成6年に再々建されている。

平成13年2月、同社神宝類の学術調査を実施し、平安時代末～江戸時代にわたる貴重な文化財を確認した。神像群は鎌倉時代の木造男神坐像、同女神坐像、同牛頭天王立像等があり大別して鎌倉・室町・江戸時代に分けられ、8種11体がある。狛犬は、平安時代末期を最古として、鎌倉・江戸時代に分けられ、5種8体がある。文書は、和銅5年銘(追記)のある竹製の筒に納められた「宮座文書」と木箱に納められた『大和国葛下郡大坂神社記』がある。前者は前後を欠失するため時期は不詳であるが、室町時代末期から江戸時代初期に記された同社の祭礼文書と考えられる。後者は、表紙を除き13帖が完存し、巻末に享保6(1721)年の銘がある。また、祭具の鉄製釜は底部が欠損するが、銘文に「石見掾」とあり、五位堂^{いむゐのじょう}物師の小原家の鑄造とわかる。享和3(1803)年銘がある。

これらの宝物は、本殿の火災や補修、改築のたびに造立されたものと考えられ、同社の来歴を知る上で貴重な資料である(平成14年3月、市指定文化財)。

引用文献

大坂山口神社修復委員会編集部 1994 『ひもろぎ』(大坂山口神社修復記念誌)
 香芝市二上山博物館編 2004 『香芝市指定文化財目録』(かしばの文化財14)
 香芝市二上山博物館編 2005 『古代大坂越えの道と大坂の神』(平成17年度秋季企画展図録)

スポット展示開催中

「逢坂・大坂山口神社 神像と狛犬」

会期:平成22年1月5日(火)～同年1月31日(日)
 開館時間:午前9時～午後5時(入館は4時30分まで)
 休館日:毎週月曜日(但し、1月11日(は開館し翌12日が休館日となります。))
 観覧料:一般200円(150円)、高・大学生150円(100円)、小・中学生100円(50円)
 * ()内は20名以上の団体割引料金。

展示解説シート No. 7

平成22年1月5日発行

香芝市二上山博物館

〒639-0243 奈良県香芝市藤山一丁目17番17号
 TEL.0745-77-1700 FAX.0745-77-1601
 E-mail nijyouzan@city.kashiba.lg.jp